

介護福祉学科

1 年生

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション		講 義	岩切 英隆
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・人間関係の形成について理解できる。 ・コミュニケーションの基礎について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	人間と人間関係①	人間らしさのはじまり、自分と他者の理解	講義・演習
2	人間と人間関係②	発達心理学からみた人間関係	講義・演習
3	人間と人間関係③	社会心理学からみた人間関係	講義・演習
4	人間と人間関係④	人間関係とストレス	講義・演習
5	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションの概念	講義・演習
6	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションの基本構造	講義・演習
7	コミュニケーションの基礎③	コミュニケーションの手段	講義・演習
8	コミュニケーションの基礎④	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	講義・演習
9	コミュニケーションの基礎⑤	対人援助における基本的態度	講義・演習
10	コミュニケーションの基礎⑥	援助的人間関係	講義・演習
11	コミュニケーションの基礎⑦	バイステックの7原則	講義・演習
12	コミュニケーションの基礎⑧	組織の条件とコミュニケーションの特徴	講義・演習
13	コミュニケーションの基礎⑨	組織における情報の流れ	講義・演習
14	コミュニケーションの基礎⑩	組織において求められるコミュニケーション	講義・演習
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：40点、期末試験：30点、出席状況：30点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅰ		講義	岩切 英隆
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えるとともに、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。また、日本の社会保障のしくみや高齢者福祉の制度についても習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 個人・家族・地域・社会のしくみや地域共生社会・地域包括ケアの考え方、その実現のための制度や施策を理解するための内容とする。また、社会保障制度や高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、その現状と課題も捉える内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・個人、家族、地域、社会のしくみと地域共生社会、地域包括ケアのしくみについて理解できる。 ・社会保障制度の基本的なしくみや考え方について理解できる。 ・高齢者福祉制度の中心となる介護保険制度の内容について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	社会と生活のしくみ①	生活の基本機能、ライフスタイルの変化	講義・演習
2	社会と生活のしくみ②	家族・社会・組織の機能と役割	講義・演習
3	社会と生活のしくみ③	地域・地域社会、地域社会における生活支援	講義・演習
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	地域福祉の発展	講義・演習
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	地域共生社会	講義・演習
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	地域包括ケア	講義・演習
7	社会保障制度①	社会保障の基本的な考え方	講義・演習
8	社会保障制度②	社会保障制度の発達	講義・演習
9	社会保障制度③	社会保障制度のしくみ	講義・演習
10	社会保障制度④	現代社会と社会保障制度	講義・演習
11	高齢者福祉と介護保険制度①	高齢者保健福祉の動向	講義・演習
12	高齢者福祉と介護保険制度②	高齢者保健福祉に関連する法体系	講義・演習
13	高齢者福祉と介護保険制度③	介護保険制度 1	講義・演習
14	高齢者福祉と介護保険制度④	介護保険制度 2	講義・演習
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 2 『社会の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：40点、期末試験：30点、出席状況：30点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護の基本 I		講義	五條 幸
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30	60 (4)	1年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉専門職としての能力と態度を養うための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の理念を理解するための内容とする。また、介護予防や看取り、災害時における介護福祉士の役割と機能についても理解するための内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・介護福祉の基本となる理念や介護福祉士の倫理について理解できる。 ・介護福祉士の役割と機能について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護福祉とは①	身近になった介護と介護サービス	講義・演習
2	介護福祉とは②	介護問題に対応した社会福祉政策の歴史	講義・演習
3	介護福祉とは③	専門職による介護が誕生した社会的な背景	講義・演習
4	介護の概念の変遷①	1970年代：介護サービスの量的拡充	講義・演習
5	介護の概念の変遷②	1980年代：介護サービスの質的向上	講義・演習
6	介護の概念の変遷③	1990年代：介護実践における基本概念の整理	講義・演習
7	介護の概念の変遷④	2000年以降：介護サービスの基本的枠組みの整備等	講義・演習
8	介護福祉の基本理念①	介護福祉の理念	講義・演習
9	介護福祉の基本理念②	尊厳を支える介護（ノーマライゼーション）	講義・演習
10	介護福祉の基本理念③	尊厳を支える介護（QOL）	講義・演習
11	介護福祉の基本理念④	自立を支える介護（自己決定権）	講義・演習
12	介護福祉の基本理念⑤	自立を支える介護（利用者主体の生活支援）	講義・演習
13	介護福祉士の役割と機能①	地域包括ケアシステム	講義・演習
14	介護福祉士の役割と機能②	介護予防	講義・演習
15	介護福祉士の役割と機能③	医療的ケア	講義・演習
16	介護福祉士の役割と機能④	人生の最終段階の支援	講義・演習
17	介護福祉士の役割と機能⑤	災害時の支援	講義・演習
18	社会福祉士及び介護福祉士法①	社会福祉士及び介護福祉士法の内容	講義・演習
19	社会福祉士及び介護福祉士法②	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	講義・演習
20	介護福祉士養成カリキュラムの変遷①	介護福祉養成教育の始まり	講義・演習

2 1	介護福祉士養成カリキュラムの変遷②	社会福祉専門職に求められる役割の拡大	講義・演習
2 2	介護福祉士養成カリキュラムの変遷③	チームリーダーとしての介護福祉士への期待	講義・演習
2 3	介護福祉士を支える団体①	日本介護福祉士会・日本介護福祉士養成施設協会	講義・演習
2 4	介護福祉士を支える団体②	日本介護福祉士学会・日本介護福祉教育学会	講義・演習
2 5	介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理	講義・演習
2 6	介護福祉士の倫理②	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応	講義・演習
2 7	介護福祉士の倫理③	日本介護福祉士会倫理綱領	講義・演習
2 8	他の専門職の倫理①	他の専門職の倫理（社会福祉士など）	講義・演習
2 9	他の専門職の倫理②	他の専門職の倫理（医師・看護師など）	講義・演習
3 0	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 『介護の基本Ⅰ』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		授業の取り組み：20点、試験：80点	
実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか			
障害者福祉、高齢者福祉の現場で介護スタッフとして利用者と関わり、管理者としてスタッフ教育をしてきました。介護福祉士としての基本的な考え方や職業倫理を、これまでの実体験やエピソードを基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。			

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅳ		講義	五條 幸
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (前期)	必須
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人たちが、どのような状況でもその人らしい生活を送れることを支援する専門職として、「生活」についての基本的な理解を深めるための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・生活を構成する重要な要素について理解できる。 ・介護福祉を必要とする人たちの生活ニーズやその多様性について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護福祉を必要とする人の理解①	私たちの生活の理解 (生活とは何か、大切な要素)	講義
2	同上②	私たちの生活の理解 (生活の特性、家庭の機能)	講義・演習
3	同上③	私たちの生活の理解 (「生活のしづらさ」に対する支援)	講義・演習
4	同上④	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	講義
5	同上⑤	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし (事例検討)	講義・演習
6	同上⑥	介護福祉を必要とする障害者の暮らし	講義
7	同上⑦	介護福祉を必要とする障害者の暮らし (事例検討)	講義・演習
8	同上⑧	暮らしを理解することと理解する姿勢	講義
9	同上⑨	「その人らしさ」の理解	講義
10	同上⑩	「生活ニーズ」の理解	講義
11	同上⑪	「生活のしづらさ」に対する支援・家族介護者への支援	講義
12	介護福祉を必要とする人の生活の実際	消費生活に関する基礎知識 (消費者保護制度)	講義
13	同上②	「衣・食・住」生活の基礎知識①	講義
14	同上③	「衣・食・住」生活の基礎知識②	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業の振り返りとまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座4 『介護の基本Ⅱ』 配布資料	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験：80% 授業の取り組み：20% (出欠状況、グループワーク、課題、提出物等)	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅱ		講義	稲垣 晴久
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30（2）	1年（前期）	必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする利用者や家族に対して行う援助的コミュニケーションについて理解し、その際に必要なコミュニケーション能力を身につける学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護サービスの利用者やその家族の意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を習得する内容とする。また、介護実践における情報の共有化を図るための方法や情報の管理についても学ぶ。 [授業終了時の達成課題（達成目標）] ・介護における利用者やその家族との関係構築や意思決定をするためのコミュニケーションの基本について理解できる。 ・介護におけるチームのコミュニケーションについて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	介護におけるコミュニケーションとは	講義・演習
2	同上②	介護におけるコミュニケーションの対象	講義・演習
3	同上③	援助関係とコミュニケーション	講義・演習
4	同上④	コミュニケーション態度に関する基本技術	講義・演習
5	同上⑤	目的別のコミュニケーション技術	講義・演習
6	同上⑥	集団におけるコミュニケーション技術	講義・演習
7	介護における家族とのコミュニケーション①	家族との関係づくり	講義・演習
8	同上②	家族への助言・指導・調整	講義・演習
9	同上③	家族関係と介護ストレスへの対応	講義・演習
10	介護におけるチームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは	講義・演習
11	同上②	報告・連絡・相談の技術	講義・演習
12	同上③	記録の技術	講義・演習
13	同上④	情報の活用と管理	講義・演習
14	試験対策	これまでの授業の振り返り	講義・演習
15	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座5『コミュニケーション技術』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：20点、試験：80点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ		講義・演習	平手 裕三・寺田 ひとみ
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60	120（4）	1年（通年）	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] ○対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。 ○健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。 ○終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解する内容とする。 ○介護ロボットを含め、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。 [授業終了時の達成課題（達成目標）] ・対象者の能力を活用し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識と技術を身につける。 ・対象者の能力に応じて福祉用具を活用するための知識や技術を身につける。 ・終末期ケアにおける支援の内容や方法について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	オリエンテーション	今後の授業についての説明等	講義
2	休息・睡眠の介護①	休息・睡眠環境を整える	講義
3	休息・睡眠の介護②	休息・睡眠の介護、休息・睡眠における多職種連携の必要性	講義
4	休息・睡眠の介護③	ベッドメイキング（リネン、シーツのたたみ方）	演習
5	自立に向けた移動の介護①	自立した移動とは、自立に向けた移動・移乗の介護1（ボディメカニクス）	講義
6	自立に向けた移動の介護②	自立に向けた移動・移乗の介護2（ボディメカニクス）	演習
7	自立に向けた移動の介護③	自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
8	休息・睡眠の介護④	ベッドメイキング1（ベッド頭元三角）	演習
9	福祉用具の意義と活用	生活支援における福祉用具の重要性、福祉用具の種類	講義
10	休息・睡眠の介護⑤	ベッドメイキング2（ベッド足元）	演習
11	自立に向けた移動の介護④	自立に向けた移動・移乗の介護3（安楽体位）	講義
12	休息・睡眠の介護⑥	ベッドメイキング3（シーツ清掃）	演習
13	自立に向けた身じたくの介護①	自立した身じたくとは、自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
14	休息・睡眠の介護⑦	ベッドメイキング4（シーツ交換）	演習

1 5	自立に向けた移動の介護⑤	自立に向けた移動・移乗の介護 4（歩行の介助）	講義
1 6	自立に向けた移動の介護⑥	自立に向けた移動・移乗の介護 5（歩行の介助）	演習
1 7	自立に向けた移動の介護⑦	自立に向けた移動・移乗の介護 6（車いす点検）	演習
1 8	自立に向けた移動の介護⑧	自立に向けた移動・移乗の介護 7（車いす外出）	演習
1 9	自立に向けた移動の介護⑨	自立に向けた移動・移乗の介護 8（上方移動）	演習
2 0	自立に向けた移動の介護⑩	自立に向けた移動・移乗の介護 9（水平移動）	演習
2 1	自立に向けた移動の介護⑪	自立に向けた移動・移乗の介護 1 0（対面法、背面法）	演習
2 2	自立に向けた移動の介護⑫	自立に向けた移動・移乗の介護 1 1（仰臥位から端座位）・確認テスト	演習
2 3	自立に向けた身じたくの介護②	自立に向けた身じたくの介護 1（口腔ケア）	講義
2 4	自立に向けた移動の介護⑬	自立に向けた移動・移乗の介護 1 2（端座位から立位）	演習
2 5	自立に向けた食事の介護①	食事の意義と目的	講義
2 6	自立に向けた移動の介護⑭	自立に向けた移動・移乗の介護 1 3（ベッドから車いす）	演習
2 7	自立に向けた食事の介護②	自立に向けた食事の介護 1（誤嚥予防のための支援）	講義
2 8	自立に向けた食事の介護③	自立に向けた食事の介護 2（配膳、姿勢）	演習
2 9	アセスメント①	アセスメントとは	講義
3 0	自立に向けた食事の介護④	自立に向けた食事の介護 3（全介助）	演習
3 1	科目終了試験（前期分）		
3 2	自立に向けた身じたくの介護③	自立に向けた身じたくの介護 2（衣服の着脱（前開き、かぶり一部介助））	演習
3 3	自立に向けた身じたくの介護④	自立に向けた身じたくの介護 3（衣服の着脱（臥床一部介助・全介助））	演習
3 4	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	自立した入浴・清潔保持とは	講義
3 5	自立に向けた身じたくの介護⑤	自立に向けた身じたくの介護 4（衣服の着脱（浴衣全介助））	演習
3 6	自立に向けた身じたくの介護⑥	自立に向けた身じたくの介護 5（髭剃り、爪切り）	講義
3 7	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1（足浴）	演習
3 8	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 2（部位の清潔）	講義
3 9	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 3（足浴）	演習

40	休息・睡眠の介護⑧	休息・睡眠とは、休息・睡眠の効果	講義
41	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	自立に向けた入浴・清潔保持の介護4（洗髪）	演習
42	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	自立に向けた入浴・清潔保持の介護5（全身清拭）	演習
43	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	自立に向けた入浴・清潔保持の介護6（入浴（一般浴、機械浴））	演習
44	休息・睡眠の介護⑨	休息・睡眠の介護1（安楽、電法）	講義
45	休息・睡眠の介護⑩	休息・睡眠の介護2（電法）	演習
46	休息・睡眠の介護⑪	休息・睡眠の介護3（安楽な体位）	演習
47	アセスメント②	バイタルチェック、確認テスト	講義
48	自立に向けた移動の介護⑮	自立に向けた移動・移乗の介護14（機能訓練）	講義
49	自立に向けた移動の介護⑯	自立に向けた移動・移乗の介護15（機能訓練）	演習
50	自立に向けた移動の介護⑰	自立に向けた移動・移乗の介護16（スライディングマット、移動式リフト）	演習
51	自立に向けた排泄の介護①	自立した排泄とは	講義
52	自立に向けた排泄の介護②	自立に向けた排泄の介護1（トイレ誘導（ポータブルトイレ））	演習
53	自立に向けた排泄の介護③	自立に向けた排泄の介護2（失禁への対応）	講義
54	自立に向けた排泄の介護④	自立に向けた排泄の介護3（仰臥位便器、尿器）	演習
55	自立に向けた排泄の介護⑤	自立に向けた排泄の介護4（紙おむつ、陰部洗浄）	演習
56	自立に向けた排泄の介護⑥	自立に向けた排泄の介護5（布おむつ（準備～片付け））	演習
57	人生の最終段階における介護①	人生の最終段階の意義と介護の役割	講義
58	人生の最終段階における介護②	人生の最終段階における介護（エンゼルケア）	演習
59	緊急時・災害時の介護①	応急手当、被災地で活動する際の心構え	講義
60	緊急時・災害時の介護②	応急手当、事故予防	演習
61	これまでの授業のまとめ	生活支援技術のまとめ	講義
62	科目終了試験（後期分）		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術Ⅰ』、 最新・介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		科目修了試験、授業態度、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅴ		講義	松本 拓希・森 幸久
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
16	30（2）	1年（前期）	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 聴覚言語障害のある人の理解、手話の基本的な知識と技術、視覚障害のある人の理解、点字の基本的な知識と技術について理解する。 [授業終了時の達成課題（達成目標）] ・感覚機能が低下している人の自立に向けた日常生活について理解できる。 ・コミュニケーション手段のひとつである手話、点字を用いて簡単なコミュニケーションを取ることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	生活支援の理解①（聴覚障害の基礎知識）	手話の歴史、自己紹介の方法	講義・演習
2	生活支援の理解②（手話の基礎知識）	あいさつを交わし、困ったときの対応を学ぶ	講義・演習
3	同上	スケジュールを伝える（数字や時間を覚える）	講義・演習
4	同上	趣味を伝える（趣味や好きなことを伝える）	講義・演習
5	同上	場所を伝える（行きたい場所を伝える）	講義・演習
6	同上	休日の過ごし方を伝える（天気、目的地を伝える）	講義・演習
7	同上	買い物の仕方（お金、購入品について覚える）	講義・演習
8	科目終了試験		
9	生活支援の理解③（視覚障害の基礎知識）	生活の場で見かける視覚障害者用の用具、設備、制度等 点字の由来と点字器 点字の五十音の仕組み	講義・演習
10	生活支援の理解④（点字の基礎知識）	濁音と半濁音、長音と促音	講義・演習
11	同上	拗音と拗濁音・半拗濁音、特殊音、点字の仮名遣い	講義・演習
12	同上	数字、アルファベット	講義・演習
13	同上	分かち書き（1）正確な文章の読み下し 記号・符号 タックペーパーを使う…自分の名前と住所を点訳して貼る	講義・演習
14	同上	分かち書き（2）文法に基づく文章の区切り方その他のルール 凸面の読みの練習（実際に街で使われているもの）	講義・演習
15	同上	街（主に駅）で使われている点字の読み（校外授業） 校内の自販機、エレベーターに点字の表示をする。	講義・演習
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		手話：市民向け手話学習テキスト編集委員会『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！』 点字：全国視覚障害者情報提供施設協会『初めての点訳』	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		手話：実技と筆記で総合的に評価する 点字：実技と筆記（持ち込み可）で総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅰ		講義		寺田 ひとみ	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
15	30 (2)	1年 (前期)		必修	
[授業の目的・ねらい]					
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。					
[授業終了時の達成課題 (達成目標)]					
・介護過程の意義、介護過程の展開について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容			授業方法
1	介護過程の意義と目的①	介護過程の意義と目的、介護過程とICF			講義・演習
2	同上②	生活支援における介護過程の必要性			講義・演習
3	介護過程の基礎的理解①	介護過程の展開			講義・演習
4	同上② (アセスメント)	情報収集の意義			講義・演習
5	同上③ (アセスメント)	アセスメントと情報収集			講義・演習
6	同上④ (アセスメント)	情報収集の方法 (ICF モデルの活用)			講義・演習
7	同上⑤ (解釈・関連づけ・統合化)	情報の解釈・関連づけ・統合化			講義・演習
8	同上⑥ (解釈・関連づけ・統合化)	生活課題の明確化とは			講義・演習
9	同上⑦ (介護計画の立案)	介護計画とは			講義・演習
10	同上⑧ (介護計画の立案)	介護目標の設定			講義・演習
11	同上⑨ (介護計画の立案)	具体的な支援内容・支援方法の決定			講義・演習
12	同上⑩ (介護の実施)	介護の実施における留意点			講義・演習
13	同上⑪ (介護の実施)	実施の記録			講義・演習
14	同上⑫ (評価)	評価の意義と目的			講義・演習
15	同上⑬ (評価)	評価の内容と方法			講義・演習
16	科目終了試験				
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』			
参考文献					
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
利用者に関心を寄せて、利用者がどのようにして生活しているのか、今後どのように生活していきたいのか、その人について深く知ることは重要です。利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために、専門的な知識・技術を活用し客観的で科学的な思考過程を通して、事例を提示しディスカッションをとり入れながら授業を行います。					

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ		講義	五條 幸
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	1年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、実習前の介護技術の確認やオリエンテーションなど、実習に必要な知識や技術について学習させ、また、実習の進め方、学生としてのマナーなど、実習に必要な事柄を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 実習の効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・介護実習の目的・目標、実習方法、注意事項について理解できる。 ・介護実習にふさわしい、学生らしい容姿・服装・態度が身についている。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	オリエンテーション 介護実習の意義と目的	2年間の実習の流れ、実習配属調査 介護実践に必要な価値・倫理・知識・技術の統合について	講義
2	実習の心構え①	施設見学の説明	講義
3	実習の心構え②	施設見学時のマナー 施設見学の事前学習	講義
4	介護実習施設の概要①	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設 など	講義
5	同上	同上	講義
6	介護実習Ⅰの意義と目的	介護実習の意義、介護実習の目的の理解、記録の種類と目的	講義
7	実習事前準備①	実習の目的、目的に沿ったテーマと自己アピールの作成	講義
8	実習事前準備②	実習記録の目的と意義、実習記録の書き方と手順・表現方法1	講義
9	実習事前準備③	実習記録の書き方と手順・表現方法2、グループにおける点検	講義
10	介護実習施設の概要②	施設見学の内容発表	講義
11	同上	同上	講義
12	介護実習Ⅰの実習計画	実習計画表の作成、カンファレンスとスーパービジョン	講義
13	カンファレンス	カンファレンスの目的・準備・実施	講義・演習
14	同上	同上	講義・演習
15	科目終了試験		
16	総括・実習の心構え③	実習前・中・後の諸注意と連絡事項	講義
使用テキスト・参考文献		(株) みらい 『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』 実習の手引き	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ		講義	中田 亜由
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30	60 (4)	1年 (前期)	必修
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学習する。 【授業全体の内容の概要】 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。 【授業終了時の達成課題 (達成目標)】 からだの構造とはたらき及び機能障害について理解できる。 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	からだのしくみの理解①	各部位の名称、細胞、組織、器官、器官系	講義
2	同上②	骨格・骨格筋系	講義
3	同上③	神経系 1	講義
4	同上④	神経系 2	講義
5	同上⑤	血液系	講義
6	同上⑥	呼吸器系	講義
7	同上⑦	循環器系 1	講義
8	同上⑧	循環器系 2	講義
9	同上⑨	消化器系と便の排泄 1	講義
10	同上⑩	消化器系と便の排泄 2	講義
11	同上⑪	泌尿器系と尿の排泄 1	講義
12	同上⑫	泌尿器系と尿の排泄 2	講義
13	同上⑬	内分泌系	講義
14	同上⑭	復習 (身体各系統の解剖とはたらきについて)	講義
15	まとめ	中間まとめ、評価	
16	同上⑮	感覚器系	講義
17	同上⑯	生殖器系、免疫系	講義
18	同上⑰	老化現象と骨粗鬆症	講義
19	同上⑱	呼吸器系疾患 (肺炎、喘息、結核、肺癌)	講義
20	同上⑲	循環器系疾患 (虚血性心疾患、高血圧、動脈性疾患)	講義
21	同上⑳	泌尿器科系疾患 (感染症、前立腺肥大、腎炎、腎細胞癌)	講義
22	同上㉑	消化器系疾患 (胃・十二指腸潰瘍、肝炎、肝硬変)	講義
23	同上㉒	腫瘍の特徴、消化器癌 (胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌)	講義

24	同上②③	神経・筋疾患1（脳血管障害、パーキンソン病）	講義
25	同上②④	神経・筋疾患2（頭部外傷、ALS、筋ジストロフィー）	講義
26	同上②⑤	内分泌疾患、代謝性疾患	講義
27	同上②⑥	感染症の分類と重症感染症	講義
28	同上②⑦	血液疾患、膠原病	講義
29	同上②⑧	復習（身体の主な疾患について）	講義
30	まとめ	これまでの授業のまとめ、総合評価	講義
31	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』 配布資料	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		試験及び出席率、授業態度にて総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅢ		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する内容とする。また、人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみが理解できる。 ・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて理解できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①	移動のしくみ、心身の機能低下が移動に及ぼす影響	講義
2	同上②	変化の気づきと対応	講義
3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	身じたくのしくみ、心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	講義
4	同上②	変化の気づきと対応	講義
5	食事に関連したこころとからだのしくみ①	食事のしくみ、心身の機能低下が食事に及ぼす影響	講義
6	同上②	変化の気づきと対応	講義
7	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	入浴・清潔保持のしくみ、心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	講義
8	同上②	変化の気づきと対応	講義
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ①	排泄のしくみ、心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	講義
10	同上②	変化の気づきと対応	講義
11	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	休息・睡眠のしくみ、心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	講義
12	同上②	変化の気づきと対応	講義
13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①	人生の最終段階に関する「死」の捉え方、「死」に対するこころの理解	講義
14	同上②	終末期から危篤状態・死後のからだの理解、終末期における医療職との連携	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、出席状況を総合的に評価する	

介護福祉学科

2年生

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション		講 義	稲垣 晴久
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・組織の運営管理、人材管理について理解できる。 ・チーム運営の基本を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	チームマネジメント①	ヒューマンサービスとしての介護サービス	講義・演習
2	チームマネジメント②	介護現場で求められるチームマネジメント	講義・演習
3	チームマネジメント③	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	講義・演習
4	チームマネジメント④	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	講義・演習
5	チームマネジメント⑤	チームでケアを展開するためのマネジメント	講義・演習
6	チームマネジメント⑥	チームの力を最大化するためのマネジメント	講義・演習
7	チームマネジメント⑦	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	講義・演習
8	チームマネジメント⑧	介護福祉職としてのキャリアデザイン	講義・演習
9	チームマネジメント⑨	介護福祉職のキャリア支援・開発	講義・演習
10	チームマネジメント⑩	自己研鑽に必要な姿勢	講義・演習
11	チームマネジメント⑪	スーパービジョンの機能	講義・演習
12	チームマネジメント⑫	介護サービスを支える組織の構造	講義・演習
13	チームマネジメント⑬	介護サービスを支える組織の機能と役割	講義・演習
14	チームマネジメント⑭	介護サービスを支える組織の管理	講義・演習
15	試験対策	これまでの授業のまとめ	講義・演習
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：20点、試験：80点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
介護の基本Ⅲ		講義		五條 幸	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択	
15	30（2）	2年（前期）		必修	
[授業の目的・ねらい]					
介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解するための学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する内容とする。					
[授業終了時の達成課題（達成目標）]					
・フォーマルサービス、インフォーマルサービスについて理解できる。 ・他職種連携や協働の必要性、そのために必要な能力について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ		内 容		授業方法
1	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①		高齢者のためのフォーマルサービスの概要		講義・演習
2	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②		障害者のためのフォーマルサービスの概要		講義・演習
3	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③		フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係		講義・演習
4	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ④		インフォーマルサービスの種類・提供者		講義・演習
5	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤		地域連携の意義と目的		講義・演習
6	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥		地域連携に関わる機関の理解		講義・演習
7	協働する他職種の機能と役割①		他職種連携・協働とは、その必要性		講義・演習
8	協働する他職種の機能と役割②		介護実践の場で他職種連携・協働が必要とされる意味		講義・演習
9	協働する他職種の機能と役割③		他職種連携・協働のためのチームづくり		講義・演習
10	協働する他職種の機能と役割④		他職種連携・協働に求められるコミュニケーション能力		講義・演習
11	協働する他職種の機能と役割⑤		福祉職の役割と機能（社会福祉士・介護支援専門員）		講義・演習
12	協働する他職種の機能と役割⑥		保健・医療職の役割と機能1（医師・看護師等）		講義・演習
13	協働する他職種の機能と役割⑦		保健・医療職の役割と機能2（リハビリ職等）		講義・演習
14	協働する他職種の機能と役割⑧		他職種連携・協働の実際		講義・演習
15	復習とまとめ		これまでの授業のまとめ		講義
16	科目終了試験				
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座4 『介護の基本Ⅱ』			
参考文献					
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		出席：10点、授業態度及び提出物：10点、試験：80点			
実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
障害者福祉、高齢者福祉の現場の介護スタッフ、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型グループホームの管理者として経験を積んできました。地域との連携や地域福祉の開発など、現在の制度とこれまで見てきた実際の地域の状況とその狭間に存在する利用者の生活について、多職種協働の重要性とあり方について、実体験のエピソード等を基にした例示や事例検討を交えて、具体的な場面をイメージし、考えながら理解する授業を行います。					

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護の基本V		講義	杉野 潤也
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の意思決定を支えるための方法や、自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解するとともに、リハビリテーションの中での介護福祉士の役割についても理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・自立支援におけるエンパワメントと ICF の意義について理解できる。 ・リハビリテーションの中での介護福祉士の役割について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	自立に向けた介護のあり方①	自立支援とは	講義
2	自立に向けた介護のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方	講義
3	自立に向けた介護のあり方③	自立支援と ICF の考え方	講義
4	自立に向けた介護のあり方④	介護における ICF のとらえ方	講義
5	自立に向けた介護のあり方⑤	リハビリテーションとは	講義
6	自立に向けた介護のあり方⑥	リハビリテーションの実際	講義
7	自立に向けた介護のあり方⑦	リハビリテーションにおける障害の理解と評価	講義
8	自立に向けた介護のあり方⑧	リハビリテーションにおける自立のとらえ方	講義
9	自立に向けた介護のあり方⑨	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	講義
10	自立に向けた介護のあり方⑩	介護予防の概要	講義
11	自立に向けた介護のあり方⑪	介護予防の種類と特徴	講義
12	自立に向けた介護のあり方⑫	高齢者の身体特性と介護予防	講義
13	自立に向けた介護のあり方⑬	介護予防の実際	講義
14	自立に向けた介護のあり方⑭	自立支援と介護予防	講義
15	自立に向けた介護のあり方⑮	介護予防における介護福祉士の役割	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 『介護の基本Ⅰ』	
参考文献		配布資料	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：20点、試験：80点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ		講義	浅井 恭子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30	60 (2)	2年 (前期)	必須
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を習得する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・自立に向けた家事支援の基礎的な知識について理解できる。 ・対象者個々の状態に応じた家事支援の方法について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	自立に向けた家事の介護①	自立生活を支える家事	講義
2	同上②	自立した家事の一連の流れ	講義
3	同上③	自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと	講義
4	同上④	調理の介護	講義
5	同上⑤	食生活の基本知識	講義
6	同上⑥	調理の基礎	講義
7	同上⑦	洗濯	講義
8	同上⑧	そうじ・ごみ捨ての介助	講義
9	同上⑨	裁縫 (衣類の補修)	講義
10	同上⑩	衣類・寝具の衛生管理	講義
11	同上⑪	買い物	講義
12	同上⑫	家庭経営、家計の管理	講義
13	同上⑬	家事の介護における多職種連携の必要性	講義
14	同上⑭	家事の介護における多職種連携の必要性 (在宅の場合)	講義
15	同上⑮	家事の介護における多職種連携の必要性 (施設の場合)	講義
16	調理の基礎①	調理計画案の作成 (高齢者の1段階の朝・昼・夜)	講義・演習
17	同上②	調理計画案の作成 (高齢者の3段階の朝・昼・夜)	講義・演習
18	同上③	簡単な調理 (だしの取り方を中心に)	実習
19	同上④	2段階の献立について調理実習	実習
20	被服生活の基本知識①	被服材料の種類と性能	講義
21	同上②	被服材料の吸水・燃焼実験	講義・実験
22	同上③	被服管理 (衣服や寝具の手入れ、汚れ、洗濯方法等)	講義

23	同上④	洗濯の種類と洗剤の種類	講義
24	同上⑤	しみ抜きの実習	実習
25	同上⑥	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）1	実習
26	同上⑦	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）2	実習
27	同上⑧	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）3	実習
28	同上⑨	被服実習（刺し子の技術を使った作品作り）4	実習
29	住空間の環境整備	室内環境の整備（掃除・ごみ問題・カビ・結露・道具等）	講義
30	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
31	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術Ⅰ』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		原則として毎時間の授業のワークシートの提出状況を重視する。また、出席率、授業参加態度及び確認テストも含めて評価基準とする。	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅳ		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30	60（2）	2年（前期）	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 利用者のさまざまな状態・状況に応じた生活支援技術について知識と技術を身につける。 [授業終了時の達成課題（達成目標）] ・さまざまな状態・状況にある利用者の介護について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	介護福祉士の行う生活支援、多職種連携のなかでの介護福祉士の役割	講義
2	生活支援の理解①（内部障害）	心臓機能障害に応じた介護	講義
3	同上	呼吸器機能障害に応じた介護	講義
4	同上	腎臓機能障害に応じた介護	講義
5	同上	膀胱・直腸機能障害に応じた介護	講義
6	同上	小腸機能障害に応じた介護	講義
7	同上	HIVによる免疫機能障害に応じた介護	講義
8	同上	肝臓機能障害に応じた介護	講義
9	生活支援の理解②（難病）	筋萎縮性側索硬化症に応じた介護	講義
10	同上	パーキンソン病に応じた介護	講義
11	同上	悪性関節リウマチに応じた介護	講義
12	同上	筋ジストロフィー症に応じた介護	講義
13	生活支援の理解③（視覚障害）	視覚障害に応じた介護	講義
14	生活支援の理解④（聴覚・言語障害）	聴覚・言語障害に応じた介護	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	生活支援の理解⑤（肢体不自由）	肢体不自由に応じた介護1（肢体不自由の理解）	講義
17	同上	肢体不自由に応じた介護2（観察の視点、支援の展開）	講義
18	生活支援の理解⑥（重症心身障害）	重症心身障害に応じた介護1（重症心身障害の理解）	講義
19	同上	重症心身障害に応じた介護2（観察の視点、支援の展開）	講義
20	生活支援の理解⑦（知的障害）	知的障害に応じた介護1（知的障害の理解）	講義
21	同上	知的障害に応じた介護2（観察の視点、支援の展開）	講義

2 2	生活支援の理解⑧（精神障害）	精神障害に応じた介護 1（統合失調症の理解）	講義
2 3	同上	精神障害に応じた介護 2（気分障害の理解）	講義
2 4	同上	精神障害に応じた介護 3（観察の視点、支援の展開）	講義
2 5	生活支援の理解⑨（高次脳機能障害）	高次脳機能障害に応じた介護 1（高次脳機能障害の理解）	講義
2 6	同上	高次脳機能障害に応じた介護 2（観察の視点、支援の展開）	講義
2 7	生活支援の理解⑩（発達障害）	発達障害に応じた介護 1（発達障害の理解）	講義
2 8	同上	発達障害に応じた介護 2（観察の視点、支援の展開）	講義
2 9	事例検討	動画を用いた事例検討	講義
3 0	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
3 1	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 8 『生活支援技術Ⅲ』	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	
実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか			
特別養護老人ホームにて勤務し、高齢者介護に従事してきました。その経験を活かし、障害や疾病のある人の医学的・心理的側面や生活上の困りごとを学び、介護福祉士として具体的な支援内容・支援方法について実技を交えながら授業を実施します。			

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅲ		講義	五條 幸
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・介護過程とケアマネジメントの関係性やチームアプローチについて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護過程とチームアプローチ①	ケアマネジメントの全体像	講義・演習
2	同上②	介護過程とケアマネジメントの関係性	講義・演習
3	同上③	ケアプランと個別援助計画の関係性	講義・演習
4	同上④	チームアプローチの意義	講義・演習
5	同上⑤	チームアプローチの実際	講義・演習
6	同上⑥	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	講義・演習
7	利用者の生活と介護過程の展開①	事例1 グループワーク	講義・演習
8	同上	同上	講義・演習
9	利用者の生活と介護過程の展開②	事例2 グループワーク	講義・演習
10	同上	同上	講義・演習
11	利用者の生活と介護過程の展開③	事例3 グループワーク	講義・演習
12	同上	同上	講義・演習
13	利用者の生活と介護過程の展開④	事例4 グループワーク	講義・演習
14	同上	同上	講義・演習
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』	
参考文献		別途プリントも使用する	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験：80% 授業の取り組み：20% (出欠状況、グループワーク、課題、提出物等)	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ		講義	五條 幸
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・前回実習の取り組みを振り返り、次回実習における自己の課題に気づくことができる。 ・介護実習の目的・目標、実習方法、注意事項について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	実習Ⅲのまとめ オリエンテーション	実習Ⅲの取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 実習Ⅳまでの予定	講義
2	グループホームについて	グループホームの概要・特性	講義
3	小規模多機能型居宅介護について	小規模多機能居宅介護の概要・特性	講義
4	リスクマネジメント	介護事故とは、事故の予防	講義
5	ターミナルケア	ターミナルケアとは、介護者のポイント	講義
6	実習Ⅳの目的と目標①	実習Ⅳの目的・目標1	講義
7	同上②	実習Ⅳの目的・目標2、テーマ・自己アピールの作成	講義
8	実習準備①	実習Ⅳにおけるテーマの書き方、自己アピールの書き方、自己課題について	講義
9	実習準備②	誓約書、施設評価表、実習定期券の申込み、実習簿の作成	講義
10	介護過程の展開① (実習Ⅲの担当事例)	フェイスシートの修正	講義
11	同上②	情報のアセスメントと課題抽出、ニーズの理解、目標設定	講義
12	同上③	介護計画の立案、評価	講義
13	同上④	事例検討 (情報収集～評価)	講義・演習
14	同上⑤	同上	講義・演習
15	カンファレンス準備	模擬カンファレンスの実施・評価	講義・演習
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		(株) みらい 『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』 実習の手引き	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解 I		講義	中田 亜由
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解する内容とする。また老化に伴う心理的・社会的な変化や健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・人間の成長と発達についての基礎的理解ができる。 ・老年期の特徴と発達課題について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	人間の成長と発達の基礎的理解①	成長・発達の考え方	講義・討論
2	同上②	成長・発達の原則・法則	講義・討論
3	同上③	成長・発達に影響する要因	講義・討論
4	同上④	発達理論	講義・討論
5	同上⑤	発達段階と発達課題	講義・討論
6	同上⑥	心理的機能の発達	講義・討論
7	同上⑦	社会的機能の発達	講義・討論
8	老化に伴うこととからだの変化と生活①	老年期の定義	講義・討論
9	同上②	老化とは	講義・討論
10	同上③	老年期の発達課題	講義・討論
11	同上④	老年期をめぐる今日的課題	講義・討論
12	同上⑤	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義・討論
13	同上⑥	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義・討論
14	同上⑦	サクセスフルエイジング	講義・討論
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ、試験対策	講義・討論
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座12 『発達と老化の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、出席状況を総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
発達と老化の理解Ⅱ		講義		中田 亜由	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
15	30 (2)	2年 (前期)		必修	
[授業の目的・ねらい]					
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。					
[授業全体の内容の概要]					
老化に伴う身体的変化や高齢者に多く見られる特徴的な疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。					
[授業終了時の達成課題 (達成目標)]					
・老化に伴うからだの変化について理解できる。					
・高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ		内 容		授業方法
1	人間の成長と発達の基礎的理解		身体的機能の成長と発達		講義
2	老化に伴うこととからだの変化と生活		老化に伴う身体的な変化と生活への影響		講義
3	高齢者と健康①		高齢者の症状・疾患の特徴		講義
4	同上②		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点1 (骨格系・筋系)		講義
5	同上③		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点2 (脳・神経系)		講義
6	同上④		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点3 (皮膚・感覚器系)		講義
7	同上⑤		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点4 (循環器系、呼吸器系)		講義
8	同上⑥		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点5 (消化器系、腎・泌尿器系)		講義
9	同上⑦		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点6 (内分泌系・代謝系)		講義
10	同上⑧		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点7 (歯・口腔疾患)		講義
11	同上⑨		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点8 (悪性新生物)		講義
12	同上⑩		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点9 (感染症)		講義
13	同上⑪		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点10 (精神疾患)		講義
14	同上⑫		高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点11 (その他の疾患)		講義
15	復習とまとめ		これまでの授業のまとめ		講義
16	科目終了試験				
使用テキスト 参考文献			中央法規 最新・介護福祉士養成講座12 『発達と老化の理解』		
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)			科目修了試験、授業態度、出席状況を総合的に評価する		
実務経験のある教員による授業科目の場合) どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
病院勤務の時に、高齢者と多く関わってきました。特に高齢者は本人の症状が正確に言えない、痛みがあっても我慢してしまうことが多く、介護する側はいつもと様子が違うことに気づくことが大切となります。高齢者に多い疾患の症状や観察のポイント、介護上で気を付けなければいけないことなどを教えていきます。					

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅲ		講義	伊藤 晶子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症の本質や特有の症状を理解し、適切なケアが提供できるよう基礎的な知識を習得する。また認知症の人を中心に据えた視点を持ち、本人・家族への関わり方、地域の力の活かし方を考える学習とする。 [授業全体の内容の概要] ○認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。 ○認知症の人を地域で支えるサポート体制や、多職種連携による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。 ○認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の介護力に応じた支援につながる内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ○本人主体の理念に基づいた認知症ケアについて理解できる。 ○多職種連携・協働による支援、家族の介護力に応じた支援について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	パーソン・センタード・ケア	講義
2	同上②	コミュニケーションの基本的な理解	講義
3	同上③	認知症の人とのコミュニケーション	講義・演習
4	同上④	認知症ケア1 (食事、排泄)	講義
5	同上⑤	認知症ケア2 (入浴、清潔保持)	講義
6	同上⑥	認知症ケア3 (休息と睡眠)	講義
7	同上⑦	認知症ケア4 (活動、生きがい)	講義
8	同上⑧	認知症の人へのさまざまなアプローチ	講義
9	同上⑨	認知症の人の終末期医療と介護	講義
10	同上⑩	環境づくり	講義
11	家族への支援①	認知症の人の家族を支える視点	講義
12	同上②	認知症の人の家族へのレスパイトケア	講義
13	連携と協働①	認知症の人の地域生活支援	講義
14	同上②	多職種連携と協働	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義・演習
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 『認知症の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、出席率、授業態度で評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
障害の理解 I		講義	伊藤 晶子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] ○障害のある人の生活を支援する観点から、障害の概念や特性の基礎的な知識を理解する。 ○心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。 ○障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。 ○障害のある人を支える家族の課題や、介護力等に応じた支援について理解する。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ○障害の基礎的理解ができる。 ○障害のある人の生活を支援するための多職種連携と協働、家族への支援について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	障害の基礎的理解①	障害の概念	講義
2	同上②	障害者福祉の基本理念1 (ノーマライゼーション・リハビリテーション等)	講義
3	同上③	障害者福祉の基本理念2 (インクルージョン・エンパワメント等)	講義
4	障害の心理的側面の基礎的理解①	人間の欲求	講義
5	同上②	適応機制	講義
6	同上③	障害受容の過程	講義
7	同上④	心理的支援の方法	講義
8	連携と協働①	地域のサポート体制	講義
9	同上②	障害福祉サービスの提供のしくみ	講義
10	同上③	相談支援事業所等との連携	講義
11	同上④	地域生活支援拠点との連携	講義
12	家族への支援①	家族に障害のある人がいるということ	講義
13	同上②	障害のある人の家族への支援	講義
14	同上③	家族の介護力をふまえた支援	講義
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座14 『障害の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、出席状況を総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
医療的ケア演習		演習		中田 亜由・伊藤 晶子	
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択	
13	10	2年（前期）		必修	
[授業の目的・ねらい]					
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な技術を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
安全な喀痰吸引・経管栄養の実施のための確実な手技を習得する内容とする。					
[授業終了時の達成課題（達成目標）]					
介護福祉士に求められる安全な喀痰吸引・経管栄養の手技を身につけることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容		授業方法	
1	経鼻経管栄養の実施手順（演習）①	教員によるデモンストレーションの見学 2人1組にて実技演習		演習	
2	同上②	同上（1人5回以上）		演習	
3	同上③	実技試験		演習	
4	胃ろうによる経管栄養の実施手順（演習）①	教員によるデモンストレーションの見学 2人1組にて実技演習		演習	
5	同上②	同上（1人5回以上）		演習	
6	同上③	実技試験		演習	
7	口・鼻喀痰吸引の実施手順（演習）①	教員によるデモンストレーションの見学 2人1組にて実技演習		演習	
8	同上②	同上（1人5回以上）		演習	
9	同上③	実技試験		演習	
10	気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施手順（演習）①	教員によるデモンストレーションの見学 2人1組にて実技演習		演習	
11	同上②	同上（1人5回以上）		演習	
12	同上③	実技試験		演習	
13	救急蘇生の実施	実施		演習	
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座15 『医療的ケア』			
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		授業態度・試験をもとに総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか					
看護師として病院勤務をしてきた経験を活かし、医療的ケアの重要性および安全・確実な方法を身につけることができるように、指導を行っていきます。人の命に関わる重要な手技であるため、デモンストレーション行い段階的に実践できるよう授業を行います。					

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
レクリエーション実技		実 技	山口 榮三
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	2年 (前期)	必修
[授業の目的・ねらい] 福祉レクの考え方・歩みを学ぶ。 福祉レクの展開状況を学ぶ。 福祉レクの企画手法・援助技術を身につける。 [授業全体の内容の概要] 福祉レクの支援計画の立案と支援実践ができるように、福祉レクリエーション（以下「福祉レク」）を支える思想、またそれが発展してきた歩みを振り返り福祉レクの具体的な内容とそれが社会福祉の諸領域でどのように展開されているかを学ぶ。そして、福祉レク援助が何を目的として行われるのか、その全体像を理解し、福祉レク援助者としての支援計画立案手法を学ぶ。 [授業終了時の達成課題（達成目標）] ・福祉レクの考え方・歩みを簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの展開状況を簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの企画・支援ができる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	福祉レクの意義	福祉レクの意義とその活動の理解及び実技種目の受講方法説明	講義・実技
2	福祉レク援助の実際	援助をリードする際の、声の強弱、立ち位置、説明方法のポイントについて実践を通して考え、学ぶ。	講義・実技
3	レクリエーションの持つセラピューティック（治療的）な効果	体の機能が低下した高齢者にとって、風船や柔らかいボールなどは安全で手軽に使える用具である。	講義・実技
4	福祉レク支援の展開と方法①	各自ゲームの企画をする。	講義・実技
5	福祉レク支援の展開と方法②	ゲーム支援の実践	実技（支援実習）
6	福祉レク支援の展開と方法③	ゲーム支援の実践（一人ひとりが支援をする）	実技（支援実習）
7	福祉レク支援の展開と方法④	ゲーム支援の実践	グループワーク （共同学修）
8	福祉レク支援の展開と方法⑤	ゲーム支援の実践	グループワーク （共同学修）
9	小集団での共同学修①ウォーク・ラリーの企画	チームで共同してウォーク・ラリーの企画を行う。コースの下見を行う。	グループワーク （共同学修）
10	小集団での共同学修②ウォーク・ラリーのコース図作成	ウォーク・ラリーコース図作成方法を学ぶ。	グループワーク （共同学修）
11	小集団での共同学修③ウォーク・ラリー体験	他グループ作成のコース図でウォーク・ラリー体験をする。	講義・実技
12	小集団での共同学修④ウォーク・ラリーの評価	各チームで企画実践したウォーク・ラリー企画の評価を行う。	実技
13	福祉レクプログラム開発①	イベント企画に必要なA-PIEプロセスについて事例を通して学び、グループ作業のスタートとする。	講義と共同学修
14	福祉レクプログラム開発②	グループで養護老人ホームの誕生日会でのプログラムを企画する。柔軟な発想と創造で楽しい企画づくり。	企画書作成共同学修

15	発表	グループごとに、養護老人ホームの誕生日会プログラムの発表を行い、全員で議論（話し合い）する。	発表・議論（話し合い）
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		楽しさをとおして心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人日本レクリエーション協会 講師が用意するプリント	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		A（優）の目安：90点、B（良）の目安：70点 ・授業で学習した内容の理解度。 ・自身の見解を論理的な文章で論じている。 ・発表が論理的である。 ・能動的な受講態度であること。（積極的で、ポイントを的確に理解した発言、発表等） ・発表、発言等に創造性、独自性がみられる。	